鵜住居小学校　第６学年　総合的な学習の時間　学習指導案

日　時　令和元年１０月３０日（水）６校時
場　所　６年生教室
児　童　３６名
指導者　片山　直人
　　大森　美子（学習支援）
　　小國和歌子（学習支援）

１　単元名　鵜住居の防災を広げよう

２　単元の指導構想

本校の防災教育の目標の１つに，「実践を通して，子どもたちが防災について主体的に学び行動できる力を育てる」がある。また，高学年の重点目標の１つに「ふるさとの復興・発展の願いをもち，地域づくりに進んで関わろうとすることができるようにする」がある。そこで本単元は，自分たちの経験やこれまでの学習を振り返りながら，発信・発表する活動を中心に展開し，さらに「これから自分が家庭や地域でできることは何か」について考えることで，命を守ることや防災に関わるまちづくりに対して主体性を高めていく。

子どもたちは，これまでの防災学習で災害のメカニズム，避難することや備えることの重要性は認識している。小学校生活のまとめとして，自分たちのこれまでの学習を振り返り，「命を守る」「命を大切にする」とはどういうことかという視点で学ぶことで，より防災に対して主体的に向き合えるようにしていきたい。また，学習したことを発信することを通して，自らの中にも，地域の中にも「防災の文化」をつくることができるようにしていきたい。

３　単元の指導計画（２５時間）

第１次　これまで学習したことをまとめよう・・・・・・・・・・・・・１０時間
第２次　自分ができることを考えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・１２時間（本時第６時）
第３次　学んだことを伝えよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３時間

４　本時の指導計画

（１）　目標

自分や周りの人の命を守るために，家庭や地域でできることは何かを考え，日常生活を見直すことができる。

（２）　評価規準【思考・判断・表現】

ねらいを達成している児童の姿	努力を要する児童への支援	評価方法
自分や周りの人の命を守るために，家庭や地域でできることは何かを考え，日常生活を見直している。	これまでの学習を振り返らせ，災害時に大切だと言われてきたことを思い出させ，「何を大切にしたいか」を話させる。	ノートへの記載，発言とグループ交流での発言内容による評価

（3） 展開

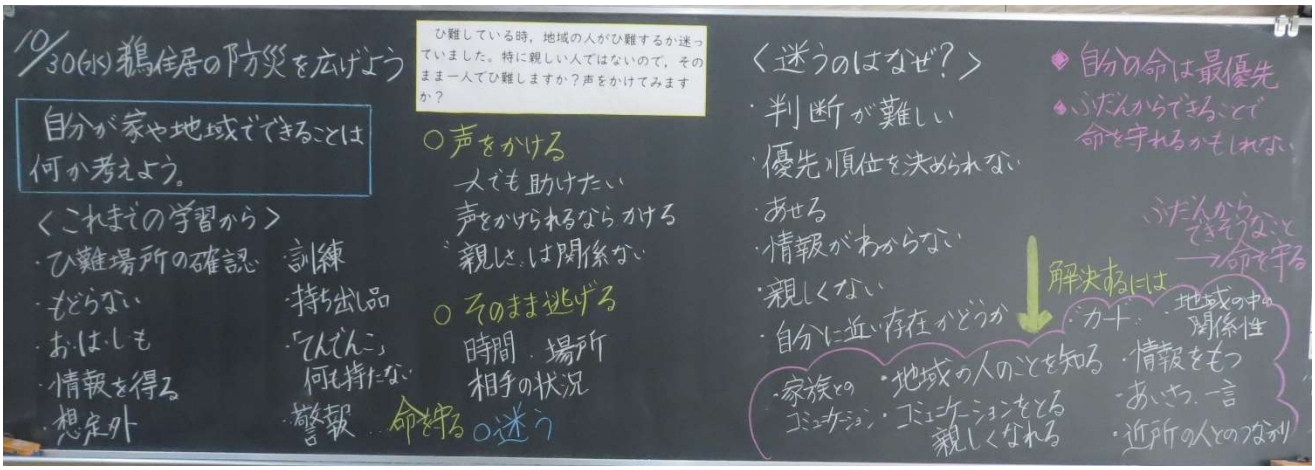
段階	○学習内容　・予想される子どもの反応	○支援	◇準備 ◆評価
導入 3 分	1　これまでの学習から，これからの課題を把握し，学習課題を設定する。 自分が家庭や地域でできることは何か考えよう。	○東日本大震災津波，復興に関する話を聞いたことを思い出しながら，「自分」という視点を持たせ，課題に導く。	◇ノート
展開 37 分	2　これまでの学習を振り返る。 （1）これまで聞いてきた話や学習してきたことの中から，命を守るために大事だと言われてきたことを発表する。 ・「てんでんこ」の考え方 ・避難訓練への参加 ・避難場所の確認 ・防災グッズの準備	○学んだことや実践していることを振り返らせ，なぜそれぞれの行動を行うかにもふれる。	
	3　今，自分が取り組めることを考える。 （1）災害時に想定できる事柄に対し，自分はどう行動するかを話し合う。 ひ難している時，地域の人がひ難するか迷っていました。特に親しい人ではないので，そのまま一人でひ難しますか？声をかけてみますか？ ・そのまま避難する／「てんでんこ」の教え ・声を掛けようか迷う／普段あまり話したことがない ・声を掛ける／一緒に避難できそう	○実際に起きうる事態に対し，学んできたことがどう生かされるのかを考えさせ，大事だと言われてきたことの意味をとらえさせる。 ○災害時には自分の命を守ることを最優先とするが，他者のことまでも考える葛藤場面が想定されることを理解させ，それを日常生活の中で解決する手立てがないか考えさせる。	◇ノート
	（2）自分の命を守り，家族や周りの人の命も守るために普段から取り組めることは何か考える。 ・避難の仕方を確実にする。 ・地域の人とあいさつを交わすなどコミュニケーションをとる。 ・くつをそろえる。 4　考えたことや話し合ったことを発表し合い，意見交流をする。	○１つ１つの行動や取り組みに対し主体的に向き合えるようにし，日常生活が災害時の適切な判断と行動につながることと，自他の命を守ることを意識させる。 ○日常的なつながりや，防災に対する意識の重要性を確認する。	◇ノート
終末 5 分	5　本時の振り返りをする。 （1）　ノートに振り返りを書く。 （2）　振り返りを交流する。 6　次時の学習内容を確認する。	○本時を通して考えたこと，グループで話し合う中でさらに考えたことなどをまとめさせる。 ○「防災」と日常生活をつなげ，学校，家庭，地域の単位でできることを整理していき実践することを告げる。	◇ノート ◆自分や周りの人の命を守るために，家庭や地域でできることは何かを考え，日常生活を見直している。

６　子どもたちの学習感想

・どこにいたとしても，自分の命だけではなく，だれかの命も守れるようになりたいと思ったし，命を守る行動をとることができるように，日ごろから備えていきたいです。ひ難場所の確にんや，地域で会った人に自分からあいさつができるようにしていこうと思いました。

・声をかけるか，かけないかということを今日考えてみて，その状況に応じて行動することが大事だということがわかってきました。また，迷わずに行動するためには，地域の人達の安否確認など，ふだんからできることで，命が助かるかもしれないということもわかりました。

・ぼくは，普段から家族や地域の人とのコミュニケーションやあいさつ，会話をすることを大切にしていきたいと思いました。そのことで守れる命があることもわかりました。また，ひ難しているか分かるようなものや，体が弱い人やお年よりの方々などがいれば，その人たちとどうひ難するかを決めていれば，助かる命があると思ったので，自分にできることを増やしていきたいです。



６　参会者からの主な感想

・これまでに学んできたことが生かされ，子どもたちが主体的に考えることができるように組まれた活動になっており，大変勉強になりました。

・場面設定がより実際に近いもので，うわべだけの知識，思考では解決できないものだった。かなり思考をめぐらせたと思うし，やはり“自分事”として考える姿勢がすばらしいと思いました。

・避難するか，それとも地域の人に声を掛けるか考える場面で，「声を掛ける」という児童が多い中で，時間，場所，相手の状況を考えて，そのまま避難したり，迷いが生じたりすることから，それをどう解決していったらよいか，子どもたちが自分だったらどうかよく考えながら話し合いをしていたように感じました。また，日々の生活のちょっとしたことが防災につながっていくというのも勉強になりました。

・防災でも最も大切なことの１つ「コミュニケーション」にふれていたこと，助けることより「自分の命が最優先」という震災当時に恐らく不足していたであろう考え方まで扱っていたのが印象的だった。当時，鵜小が助かったことは，中学生というよりは，児童会等でも子ども同士のコミュニケーションがとれていたこともあると考えるので，とても貴重な授業だと思った。

・地域における３・１１のときの避難の事実の学習（３人の地域の方のお話を地図や感想により整理）が土台になっていました。「正解」の暗記でもなく，「議論のための議論」でもない，未来の人々の命を守るための切実な話し合いが行われていました。今後の防災教育の方向性を示すもの

だったように思います。

・予定調和でなく，ライブ感があり，大変おもしろかったです。「迷う」というテーマ設定にも自然に推移していき，見事だと思いました。私自身もどうするか考えたし，だからこそ，何より子どもたちの発言が身の丈に合っていて，とてもおもしろかった。何でもかんでも挙手するのをよしとせず，自分が発言できる時だけ挙手しているのが分かりましたし，日常的に子どもの意見を大切にしながら，無理をさせずに学級をつくっているのだろうと思いました。子どもの生活に即して，震災や防災をどう考えていけばいいのか，考え続けていく実践であることが伝わってきました。あえて言えば，「迷う」と「何ができるか」をつなぐ際に，もう１つ何を媒介した方がよかったのかもしれないと思いました。その何かはすぐには思い浮かばないのですが。

・私たち大人も考えさせられるもので，でも今日の授業での子どもたちの発言や話し合いを聞く限り，私の方が６年生の子どもたちより考えが曖昧だったり，判断の材料もなく考えられなかったりでした。インプットとアウトプットのバランスと，積み重ねの重要性，片山先生の導きにより，６年生の姿に頼もしさとたくましさを感じました。うわべの言葉ではなく，自分の言葉として表現されていたからです。学びの力だと思います。

7　指導を終えて

〈成果〉

○ 災害時に想定される場面に対し，最初は建前的な発言が中心だったが，教師側から「迷う」ことを提示すると，迷いとその原因を子どもたちが想像し次々と発言した。場面設定が自分の周辺で起こり得ることをイメージし，自分事としてとらえることができた。

○ 場面を自分事としてとらえたことと身近にある原因を探ったことで，さらに今後どうしていけばよいかについても，具体性をもって考えることができた。

○ 「防災を広げよう」という大きなテーマに沿って，この学習を経て，自分や他者の命を守るためにどんなことを広げていけばいいかを認識することができた。

〈課題〉

▲ 想定した場面が抽象的だったことで，子どもたちの想像や想定できる迷いの範囲が広がり過ぎる可能性もあった。具体的な場面設定を行うこともできたかもしれない。

▲ これまでの学習の積み重ねは大きいが，自分事として積み重ねていかないと，防災の学習が建前的なものになる可能性があることもわかった。いかに具体性をもって，自分事としてとらえさせることが重要かがわかった。